

平成19年度全国水生生物調査結果

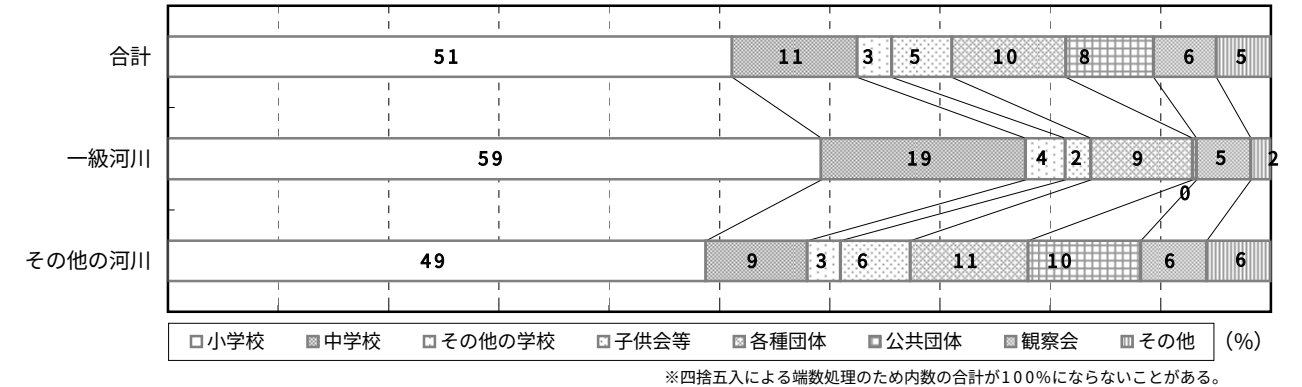
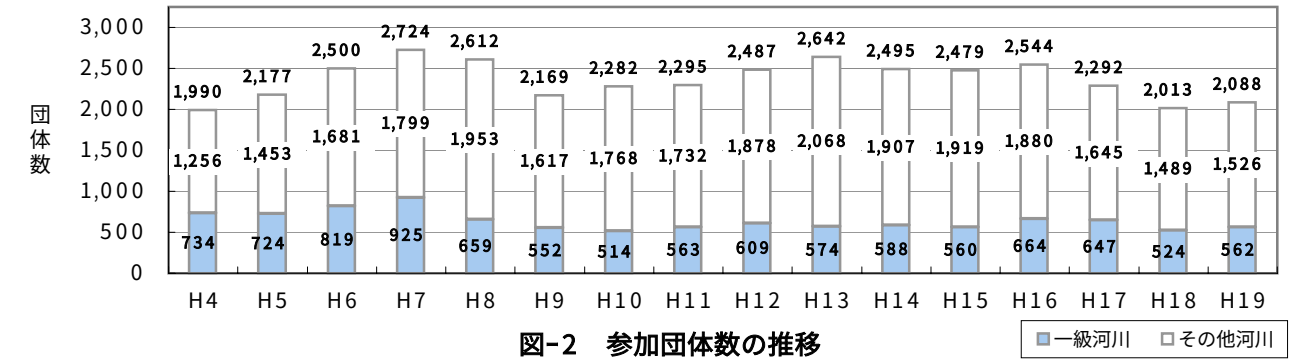
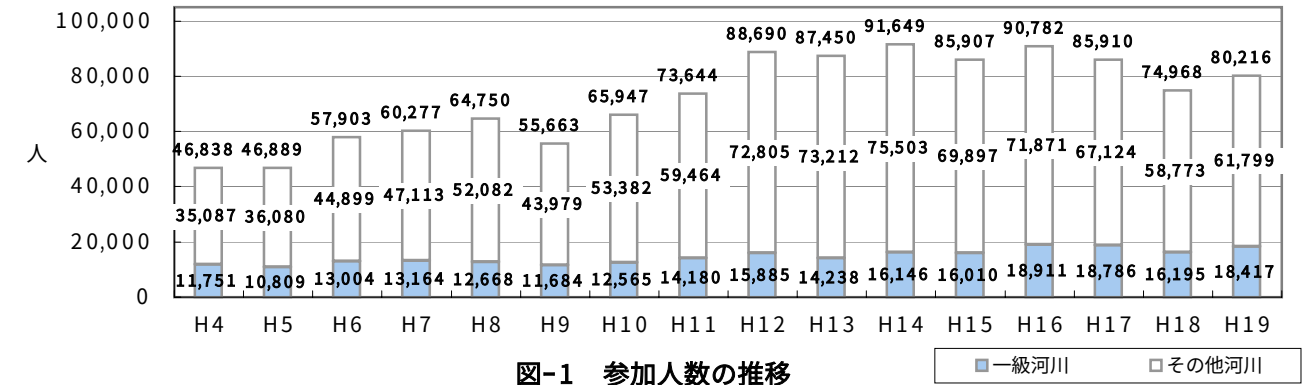
1. 参加人数及び参加団体数

平成19年度の参加人数は80,216人であった。
うち、一級河川※¹は18,417人であり、その他の河川※²は61,799人であった。また、参加団体数は2,088団体で、うち一級河川は 562団体であった。
参加団体別の参加人数は小学校での参加が最も多く、次いで中学校、各種団体の順番であった。
都道府県別の参加者数では福島県が最も多く、次いで岐阜県、岩手県の順番であった。なお、一級河川では北海道が最も多く、2,805人であった。

※1 一級河川大臣管理区間（以下「一級河川」と言う）
※2 一級河川都道府県管理区間及び二級河川等※1以外の河川（以下「その他の河川」と言う）

参加者数の多い都道府県

順位	都道府県名	参加人数	うち一級河川
1	福島県	8,861	1,441
2	岐阜県	7,353	424
3	岩手県	6,129	307
4	愛知県	5,293	800
5	静岡県	3,852	503



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-3 参加人数の団体種類別構成比

2. 調査地点数

調査地点数は3,586地点であった。
内訳は、一級河川は662地点、その他の河川は2,924地点であった。

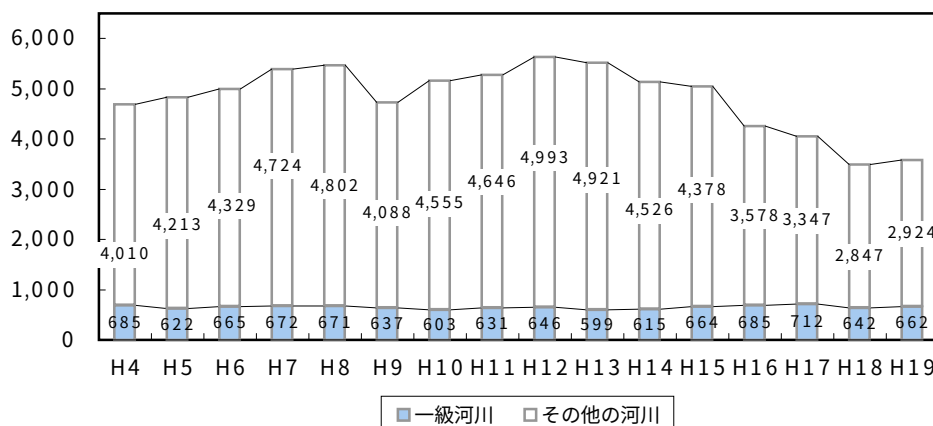


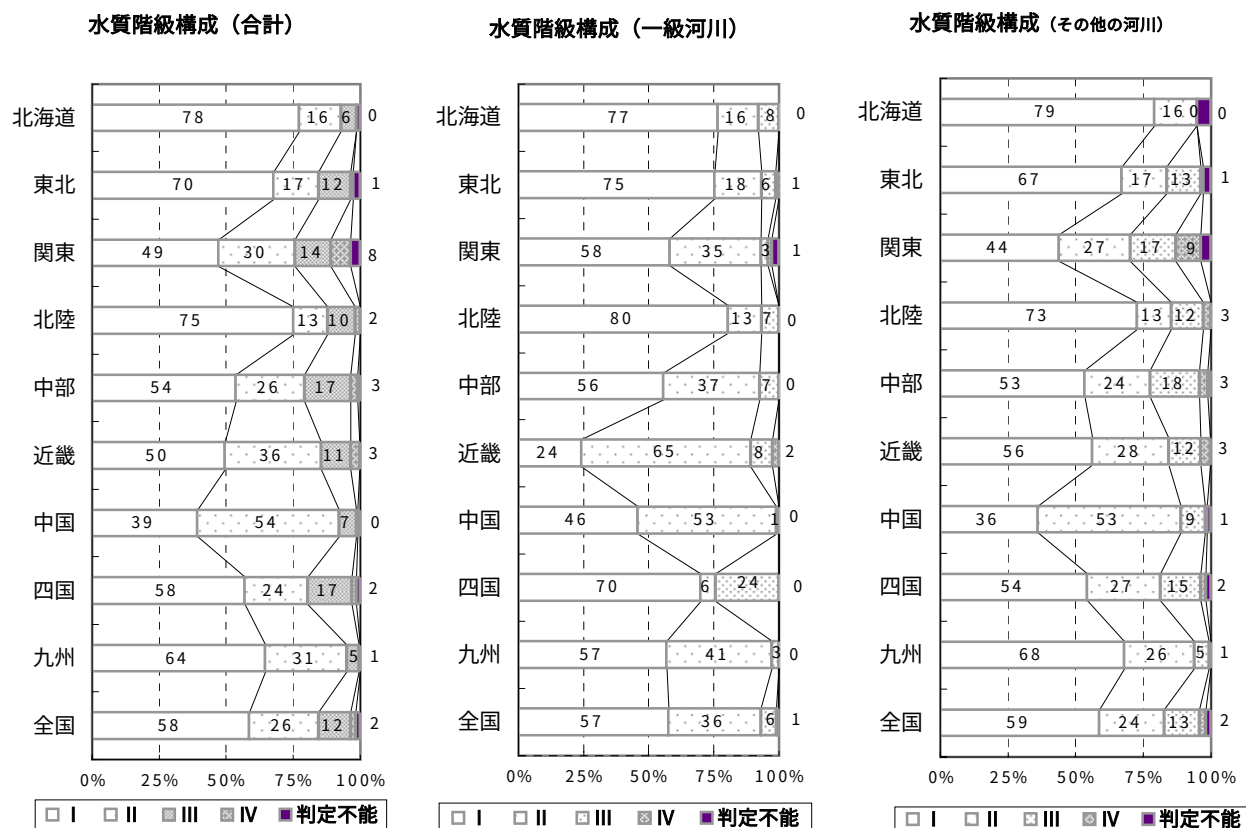
図-4 調査地点数の推移

3. 地域別水質階級構成（地域別の水質の状況）

本調査は、調査地点を参加者が任意に選定するため、我が国の河川の状態を正確に代表したものではない。しかし、多数の地点で調査されているため、全国の水質の状況を概括的に知ることができると思われる。

平成19年度は、全国で水質階級Ⅰ（きれいな水）と判定された地点が58%、Ⅱ（少しきたない水）が26%、Ⅲ（きたない水）が12%、Ⅳ（大変きたない水）が2%であった。

Ⅰ（きれいな水）の割合でみると関東、近畿、中国地方は50%以下であったが、北海道、東北、北陸地方は70%程度の高い値であった。各地方の一級河川とその他の河川のⅠ（きれいな水）の構成比は全般に似通った値であるが、近畿地方はその他の河川の方がⅠ（きれいな水）の構成比が高く、関東、四国地方では逆に一級河川の方が高いなど地域による差も生じている。



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

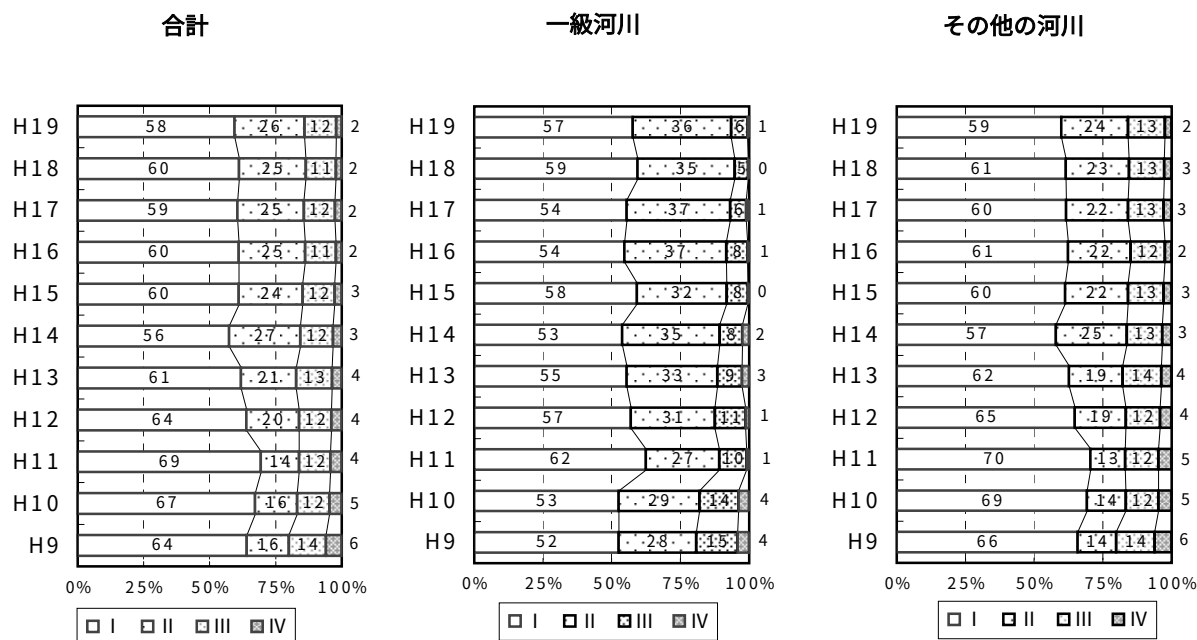
図-5 地域別水質階級構成比

4. 水質階級構成比の年次推移

全国の全調査地点の水質階級構成比を図6に示した。

平成11年度をピークに、Ⅰ（きれいな水）と判定された地点の割合は減少傾向にあったが、平成15年度にⅠ（きれいな水）と判定された地点の割合が4%増加した。本年度は昨年度から2%減少して58%となり、Ⅱ（すこしたくない水）と判定された地点は1%増加している。

なお、年次ごとの調査地点については相違しており、必ずしも同地点を比較したものではない。



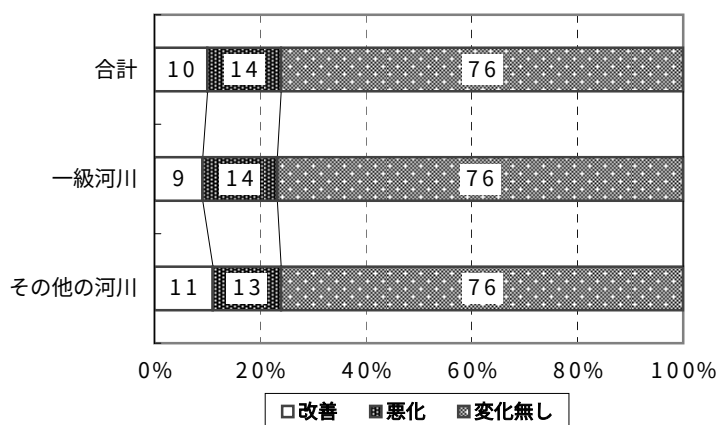
※1 判定不能地点の扱い及び四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

※2 平成12年度から調査手法を変更しているため、平成12年度と平成11年度以前との厳密な比較はできない。

図-6 水質階級構成比の年次推移

5. 前年度（H18）との比較

前年度と同じ地点で調査された1,515地点について比較すると、10%の地点が改善、14%の地点が悪化、76%の地点が同じ水質階級であった。



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-7 同一調査地点での昨年度との比較